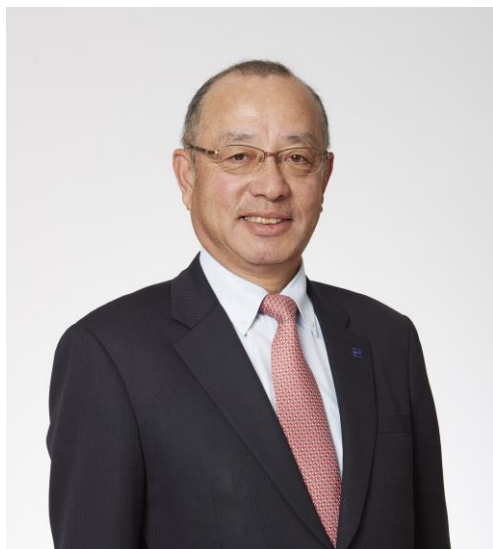


2022年 新年のご挨拶



迎春

一般社団法人
日本自動販売システム機械工業会
会長 尾上 広和

新年明けましておめでとうございます。2022年の新春を迎え謹んでお慶び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルスがもたらした「新たな日常」に向けて、生活様式のみならず、産業構造や社会システムをも変化させることを迫られた一年でありました。当会といたしましても、例年とは異なる一年間を過ごして参りました。マスクを着用する日々は日常化し、非接触・非対面によるコミュニケーションが推奨され、勤務形態・消費活動など様々な分野でコロナ禍以前には後戻りのできない大きな変革が起きました。そして、この変革が私たちの社会生活を変容させていることを日々実感しております。そうした中、7月から8月にはコロナ禍というこれまで経験したことない状況下で、57年ぶり2回目となる東京オリンピック・パラリンピックが開催されました。各国トップ選手の迫力ある競技は、テレビ越しながら世界を大いに盛り上げました。さらには、国民へのワクチン接種が進む中、9月には緊急事態宣言が全面解除され、コロナ禍脱出に向けた光明が少しばかり差しつつあります。

自販機業界におきましては、以前から減少傾向にあった飲料自販機の2021年1月～12月の新台出荷は約11万台となる見込みです。これは一昨年に引き続き、テレワークなどの在宅勤務が大企業を中心に実施されたことで、屋

外や職域での清涼飲料の売り上げが落ち込んだことが要因に挙げられます。その他、イベントなどの中止により、消費マインドが低下したことも飲料の売り上げ減少に拍車をかける格好となりました。また、切符自販機においても飲料自販機と同様に出荷が減少することとなりました。特に食券券売機は、初めての緊急事態宣言下にあった一昨年に比べて回復傾向にはあるものの、コロナ禍以前にはほど遠い状況にあります。一方、非対面・非接触という特性を活かし、多様な商品が自販機で販売されるなど、自販機の存在価値をあらためて見出した機会となりました。

こうした中、11月1日には、新500円貨幣が発行されました。当会におきましては、自販機・自動サービス機の円滑な新貨幣対応を実施し、現在大きな混乱はみられておりません。しかし、飲料自販機やバス業界など一部市場においては、貨幣の流通量を鑑み、対応に慎重な姿勢を示しておりますが、今後の通貨発行量に応じて、市場の機器改修が進むと想定し、準備を進めて参ります。また、2024年上期発行予定である新日本銀行券への対応についても、円滑な市場対応がなされるよう当会が中心となって、事業を進めていく所存でございます。その他、省力化・マーケティング力の向上を目的とした新通信仕様の普及促進など、自販機・自動サービス機の付加価値を向上する施策に取り組んで参ります。

さて、2022年の干支は壬寅（みずのえとら）ですが、字義を鑑みれば、「厳しい冬を越えて、芽吹き始め、新しい成長の礎となる」と解釈されます。コロナ禍という厳しい冬を超えた先に新たな成長があると信じ、引き続き「安全」・「安心」な自販機のご提供に一層取り組んで参ります。今後ともご指導、ご協力をお願い申し上げ、皆様のご健勝とご繁栄を祈念して新年の挨拶と致します。

以 上